但馬家畜市場

カウカウ情報2026

10月市



光都農業改良普及センター

１０月１４日に行われましたセリ市全体の平均価格は、去勢が９３万、　雌が９３万４千円でした。

普及センター調べ（税込価格）
（雄を除くため、JA公表数値とは異なります）

地域	去勢			雌			総計	
	頭数	DG	平均価格	頭数	DG	平均価格	頭数	平均価格
赤　佐	2	0.926	973,500	5	0.858	924,220	7	938,300
丹波篠山	3	0.940	963,233	3	0.850	954,800	6	959,017
丹　波	22	0.954	917,950	7	0.797	903,571	29	914,479
朝　来	5	0.962	997,480	7	0.901	1,029,129	12	1,015,942
播　磨	21	0.944	874,710	16	0.825	834,006	37	857,108
美方郡	58	0.974	897,240	40	0.860	967,230	98	925,807
豊　岡	19	1.035	990,289	10	0.817	919,270	29	965,800
養　父	21	1.018	1,020,329	9	0.850	963,600	30	1,003,310
摂津・神戸	5	0.916	881,980	5	0.805	878,900	10	880,440
県北C	2	0.978	899,250	1	0.782	928,400	3	908,967
市場全体	158	0.977	929,611	103	0.844	934,327	261	931,472

10月市種雄牛ランキング

順位	種雄牛	去勢			雌			総計	
		頭数	平均DG	平均価格	頭数	平均DG	平均価格	頭数	平均価格
1	茂貴波	9	1.003	969,956	3	0.857	1,056,733	12	991,650
2	丸若土井	19	0.963	985,947	18	0.847	955,839	37	971,300
3	忠味土井	30	0.968	968,037	13	0.835	934,323	43	957,844
4	悠竜土井	5	1.042	969,540	8	0.885	924,688	13	941,938
5	山伸土井	28	1.029	936,100	15	0.850	948,640	43	940,474
6	丸春土井	13	0.951	964,531	10	0.832	908,160	23	940,022
	総計	158	0.977	929,611	103	0.844	934,327	261	931,472
7	杉広土井	7	0.939	882,200	7	0.860	953,543	14	917,871
8	悠森土井	7	0.896	916,457	4	0.792	830,775	11	885,300
9	照和土井	5	0.998	883,740	5	0.816	820,380	10	852,060

価格は税込み　（10頭以上の出荷があった種雄牛のみ記載）

ランキング種雄牛の育種価

	種雄牛	枝肉重量	ロース芯面積	バラの厚さ	皮下脂肪厚	歩　留	脂肪交雑
1	茂貴波	B	A	D	D	C	B → A
2	丸若土井	B	A	A	A	A	A
3	忠味土井	B	A	B → A	C	A	A
4	悠竜土井	B	C → B	C → B	B	C → B	A
5	山伸土井	A	A	D	A	A	A
6	丸春土井	C	B	C	B	B	A
7	杉広土井	C	A	B	B	A	B → A
8	悠森土井	C → B	C	C → B	B	C → B	A
9	照和土井	A	A	C	B	B	B

バックナンバーはこちらから

北部農業技術センター提供（育種価評価は令和8年10月現在）

子牛の冬支度は寝床から！

・はじめに

朝晩の冷え込みが厳しくなるこれからの時期、子牛の管理で改めて確認したいのが牛床の状態です。

子牛は体重当たりの体表面積が大きく、脂肪も多くありません。また、第１胃での発酵熱が少ないことから、成牛に比べると寒さに弱い状態です。気温が低い時、体温を維持するために多くのエネルギーを必要とするため、冬場の寒冷ストレスが発育の遅れだけでなく、下痢や呼吸器病などの疾病発生につながります。特に生後間もない子牛ほど影響を受けやすいため注意が必要です。

・防寒対策と同じくらい重要なこと

寒さ対策というと、カーフジャケットや赤外線ヒーターを思い浮かべる方も多いかもしれません。しかし、それと同じくらい重要なのが「厚みのある乾いた牛床」です。

子牛は一日の多くの時間を横になって過ごします。そのため、牛床が薄かったり湿っていると、体熱が奪われやすくなり、知らないうちに寒冷ストレスを受けています。また、敷料の水分が増えると細菌が増殖しやすくなり、衛生状態の悪化にもつながります。

・敷料の種類

子牛の敷料としてオガクズを利用している方も多いと思います。オガクズは扱いやすい資材ですが、一方で、細かくなった状態では空気層が少なくなり、吸水性も高く、牛床が湿った状態になりやすいです。また、粉塵を吸い込むことによる呼吸器疾患を引き起こすリスクもあります。

そこで、冬場の寒さ対策としては、もみ殻や稲わらの活用も一つの選択肢です。もみ殻は粒の間に空気を含みやすく、牛床の通気性を確保しやすい特徴があります。また、吸水性が低いので、尿で表面が濡れることがなく、牛体を清潔で乾燥した状態に保つことができます。

稲わらは寝床に厚みを持たせやすく、子牛と地面との間に空気の断熱層をつくる効果が期待できます。

この時期入手しやすい、もみ殻や稲わらをうまく組み合わせることで牛床環境を改善することができます。



・空気の断熱層の維持

人が寒いと感じた時に鳥肌が立つように、牛も毛を立てて間に空気を含み、体温が逃げるのを防いでいます。しかし、子牛は成牛に比べてこのような体温調節機能が未熟で、寒さへの対応が十分ではありません。そのため、寒い時期は牛床づくりによって保温を助けてあげることが大切です。

敷料を厚く敷くと、その中に多くの空気が含まれます。この空気の層が断熱材のような役割を果たし、床から伝わる冷えや体温の放散を抑えてくれます。

一方で、牛床の管理が不十分だと、敷料は糞尿による湿りや踏圧によって押し固められ、空気の断熱層が失われてしまいます。そうなると、床からの断熱効果が低下し、寒冷ストレスを受けやすくなります。敷料の補充や床替えは手間のかかる作業ですが、初期の損耗はその後の成長に大きく影響します。よい子牛を育てるためにも、十分な量の敷料を確保し、空気を含んだ牛床を維持できるよう、こまめな床替えを心掛けましょう。

・今こそ子牛の牛床環境の再確認を

乾いた厚みのある清潔な寝床は、子牛にとって最も基本的で効果的な寒さ対策の一つです。健康な発育のためにも、今一度牛床の環境を点検してみましょう。

☑牛床は湿っておらず、乾燥を保てる状態ですか？

☑牛床は十分に分厚く、清潔な環境を作れていますか？